

講師：西村好美(日技認定講師)

・教養課程(職業倫理)

「歯科技工と業界の展望」

歯科医療業界は日々進化し、われわれ歯科技工業界においても CAD/CAM を含めたデジタルデンティストリーによる変化を皆様も日々の臨床の中で感じられていることと思います。

しかし、いつの時代、どの業界においても基本となる不動のものと進化(環境へ適応)するものがあります。それらに合わせ、私たち歯科技工士も新しい知識・技術を取り入れながら、創造性を豊かに進化していく必要があります。

そこで今回は、私の歯科技工歴 30 年の経験とダブルライセンスを取得したことにより得た歯科医療現場で求められる歯科技工のあり方を含め、過去・現在・そしてこれからの方向性について、「歯科技工と業界の展望」というテーマでお話しさせていただきたいと思います。

・専門課程(歯冠修復技工学)

「補綴物形態のあり方を考える」

「治療」の中心となる患者が望む審美性はもちろんのこと、製作された補綴物の色調・形態が性別・顔貌・口唇・歯周・隣在歯等といかにして調和しているか思慮深く観察する必要があります。また、患者が希望する口腔状態が作られた後いかにそれが長期的に健全な状態で保たれていくか等、患者はもちろんのこと我々にも大きな課題となっている。

これらの課題を解決するためには、歯科医師と歯科技工士、歯科衛生士の三者が修復治療の目的をしっかりと持ち、専門性を活かして、患者の口腔内を正しく評価・診断を行う必要があります。治療が進む中で製作される補綴物は、咬合はもちろんのこと歯周などにも配慮されていることがとても重要である。

歯科医師・歯科技工士・歯科衛生士の三者の連携が修復治療の成功のカギといっても痛言ではない今日における歯科医療にとって、ラボサイドがおさえておくべきチェアサイドの情報の重要性についてお話させていただきたいと思います。